

## はしがき

本報告書は平成 22 年度アジア経済研究所・研究事業「アジア長期経済成長のモデル分析」の研究成果報告である。アジア経済研究所は長年アジアの開発途上国を対象にしたマクロ計量モデルの作成と経済分析を行ってきた。平成 21 年度は基礎理論研究会「政策評価のためのマクロ計量モデル」研究会を組織し、その研究成果を野上裕生・植村仁一編『開発途上国のマクロ計量モデル』（2010 年 3 月、日本貿易振興機構アジア経済研究所）として公刊した。その成果を受けて、今年度は内需を重視した長期的に持続可能なアジア経済成長への道筋を探るために、マクロ計量モデル分析への準備作業を行った。この成果を示すのが、本報告書の目的である。

本報告書の内容は以下のようになっている。第 1 章（野上裕生「アジア長期経済成長のモデル分析に向けて-消費関数を中心に」）は人口構造への変化を考慮した消費関数をアジア諸国に対して推定し、今後のマクロ計量モデル作成への手掛かりを探るものである。第 2 章（植村仁一「アジア長期需要成長と人口要因-中国の事例」）は民間最終消費関数に人口変動要因を組み込んだ小規模のマクロ計量モデルを中国のデータを基に作成し、人口変動のマクロ経済へのインパクトを分析したものである。第 3 章（大泉啓一郎「アジアの家計消費市場の現状と展望」）は近年のアジアの家計消費をめぐる様々な研究動向を展望し、今後の研究課題を明らかにするものである。第 4 章（植村仁一「中国のマクロモデル構築のためのデータベース概要」）は中国の国民経済計算の現状を紹介し、マクロ計量モデルの構築の上での問題点、および、その改善への手がかりをまとめたものである。後半部分の『データ篇』は上記諸論文で利用された統計データの値、その出所と作成方法をまとめたものである。

本研究事業の実施にあたっては、様々な方々のご支援をいただいた。2010 年 7 月 29 日には研究会講師として、加藤久和先生（明治大学政治経済学部教授）に、マクロ計量モデルによる人口構造変化・社会保障分析の研究動向について、報告していただいた。2010 年 11 月 25 日には研究会講師として、李潔先生（埼玉大学経済学部教授）に、中国の国民経済計算の現状と問題点を報告していただいた。また研究会と並行して、2010 年 8 月 6 日には夏期公開講座「経済開発のためのモデル分析」（会場・ジェトロ本部）を開催したが、その過程で井上武氏（アジア経済研究所・地域研究部）から時系列解析をテーマにした講義で、御協力をいただいた。最後に、アジア経済研究所・研究業務調整室の方々には、実務面でのご支援をいただいた。こうした様々な方のご指導・ご支援に対して、心から御礼申し上げたい。

2011 年 3 月  
野上裕生（開発研究センター）